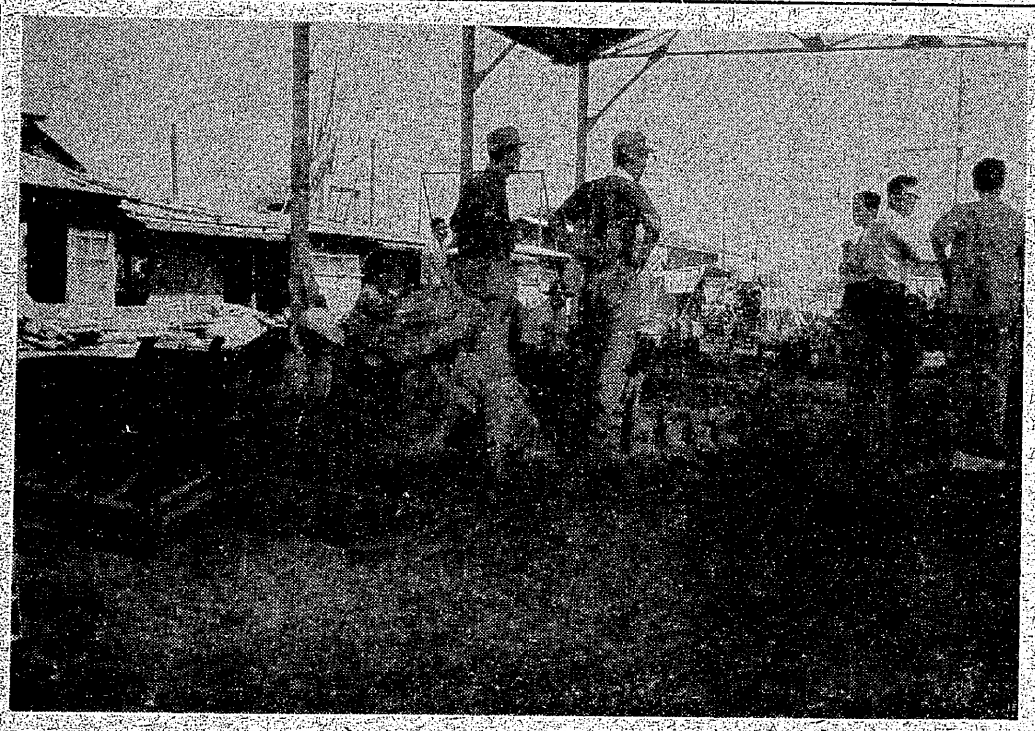

三川鉱坑外での金物のサビ落としなどの軽作業でも、CO患者の仲間たちにとつては、目に見えないところにこたえているのだ。その中から、ついに死者をさえ出したのである。

西本さんへの誓い

三川坑外CO分会が自主交流

先決問題は——俺たちCO患者がまず労働者らしく生きること

三川の坑場十一分会（坑外のCO坑場）では十数人の仲間が集まって、去る二十六日指導部の一室に集まり、こんどの西本さん（患者）の死をどう受けとめるべきかについて話合ったが、重要な内容をもっていると思われるので、その概略を紹介します。

この日は、日ごろ別れ別れになっている坑場から代表が集まったが、話はまず「西本さんが死なしたことは、まだピンどこん。まだ生きどらすごたる気がしてならん」という声からはじまった。

あげんしてはって、かれては……

——休みつかず二、三日前から「きつか、きつか」で、休憩時間になるとすぐ寝よらした。もともと気が強くて、「きつか」ちは決していわっさん人じゃったし、仕事もソフトボールも人一倍、やりばなしにやりよらした。ようぼど、駄目にされた脚力の回復は思うてのことじゃったろう。

——あげんしてはってかれると、ちょうど自分の明日は見せつけられたごたる気がしてならんが。

誤ったがんばりが死に追いやるもと

——脚は思うての訓練はわからんじゃなかが、そのため、かんじかに奥さんも無理は感じとらしたらしく、あんまり「満勤、満勤」で出らす西本さんに、わざわざ用事をこさえてまで休んでもらおうとしたことがある。そういいよらした。それでも「でけん」ち、出よらしたそうげなが。

——俺たちは、体の調子が悪いなと思うたときは、もっと自分からすすんで「こげん」ち訴えるべきだとい、いまつくづく思いついている。過ぎたがんばりが、返って俺たちを死に追いやることにもなるし。

「努力せれせれ」ばかりでよいか？

——それにしても、たとえトレーナーがついていてさえ、ただ「がんばれ」ばかりじゃったろう。医者でさえ「努力せれ、努力力せれ」のただそれだけ。それを正直にやってゆく者こそ哀れで、うっかりすると死んでしまう。

——西本さんが、まさにそのよか手本じゃん。

——それも政府と三井の差しがネが、結局そうさせているわけだから、あくまで責任を追及すべきだ。何といっても、勝ち取ったCO特別法の内容を充実させることが第一。そのためにも、これからは体ン悪かときは「悪か」ち、頭ん痛かときは「痛か」ち、ハッキリ宣言すること。それを自分でがまんするのは、自分で自分の命を投げ棄てるようなもん。

——いわれて見ると、まったくその通りだと思う。俺の坑場にも、仕事をやり出したら止まらん人もおらすけん、これからは必ず「休みなはれ」ちいうてやらんなら。

とにかく、体ん悪かときには積極的に医者にもゆく。一日の賃金を失うどころのことじゃなかよ。

体制や条件の問題よりまず実行から

——それにはやっぱり、すぐ医者にかけつけられるごつ、条件と体制を勝ち取ることじゃなかろうか。そうでなかと、たとえ病院にいくべきときでも、がまんしてしまうことになる。

——いや、体制や条件のことを云々することより、いくべきときにはまずいって、実際に出てくる実績を示して問いつめてゆかんなら。金のことを考える前に、まずいくこと。そんため、賃金はひかれようがひかれまいが、まずゆくこと。それでこそはじめて、条件も体制も勝ちとれるんじゃなっかな。その覚悟がでけんなら、たとえ仏さんになっても文句がいえん。

——賛成だ。「週間にいっぺんと、会社によってきめられたもんにしばられるべきではないな。

——西本さんは、自分のがまんに頼り過ぎらしたっじゃな。

西本さんはやっぱり会社が殺したつ

——やっぱ、会社が殺したんだ。

——もちろんそうだ。ガスば吸うことさえなかったら、西本さんはいまごろは、元気に坑内に下がりよらしたはずじゃん。患者のうち、ガンで死んだ人もほかに何人もいるが、坑内に下がる体力があったなら、まさかあの若さで、ガンで死ぬこともなかったろう。

——聞くところによると外国では、西本さんの死のような場合、全部労災で処理されとるというが。仕いているときに出た病気に私傷はあり得ぬ。これが外国での考え方らしか。まして、西本さんの死を私傷にするなどナンセンスじゃん。

——たしかに。どげん私傷病も、あまりな合理化攻撃の中での体の衰弱から出てくるものだし、病気は一切公傷にすべきだ。

——とにかく、自分の体は自分でまず管理すること。休むべきときは堂々と休もう。

もういっぺん自分自身厳しい反省を

——俺たちの闘いは、いって見れば人権闘争じゃろもん。この大切な闘いをすすめている俺たちとして、西本さんをうしなったこの際、もういっぺん自分を厳しく反省して見るべきではないかな。

——CO患者になった原因を忘れてはこまる。宮浦の闘いに学ぶわけでもないが、三十八年のあのときは、自分たちは斜坑道にいっぱい、炭じんが積もっていたところを見ていたはずじゃん。あのとき俺たちとしては、保安監督官をひきずってきてでも、あのさまを見せとくべきじゃった。ひと目見せていたら、おそらくはあんな大きな爆発をひき起こさずにすんでいたかも知れんし、また俺たちもこんな体にならずにすんどったはず。それをやらなかったのが、残念でならん。

西本さんの死にこたえるためにも、外部の一切の条件を克服して何者にもとらわれることなく、もっと積極的に、自分たち自身の健康管理をやること。

——つまり、俺たちがまっ先に立って、まず労働者らしく生きることじゃろもん。

——それが、今日の結論じゃな。その立場から堂々と、会社に対して、「西本さんの死を公傷取り扱いにせよ」と叫びつづけてゆこう。

——そして改めて、俺たちのあらゆる要求の正しさを確認し合い、もっと確信をもって闘ってゆくことだな。

東で西で、CO守る会発足

現在あちらこちらで、CO患者守る会が発足している。

埼玉県の川越市の守る会の発足は、三池に学ぶ会運動に結集された人々の努力が実ったものだという。

発足の七月十日には宮浦の退職者の久富広さん夫妻も同席、苦しくも誇りに満ちた闘争体験を語り、それがみんなの誓いを新たなものにしたことが伝えられてきた。

大阪府寝屋川市大字高宮八一六北市立第一中学校にも、守る会が誕生した。責任者は泊英敏先生でこの組織に努力していただいたのが、藤田世津子先生（三池と連帯ある方）。

また、東京都の町田市自治労では、「三池のCO患者を見殺しにするな」と、カンパ活動に立ち上がっているが、いずれも心からその発展を祈らずにはいられない。

「三池CO患者守る会」に入会された方々

（五月九日現在）

矢野　安二　高知県安芸市千歳町
浜滑　秀夫　〃
平島　拓　〃
田中　一広　〃
小松　幹広　〃
久川久寿美　〃
渡辺　仕　安芸市宝永町
仁井田幸作　〃　安芸市畑山西
門田　教宏　〃　高知市旭町
田村　豊稔　〃　高知市鳴部
橋本　俊二　〃
竹崎　茂男　〃　高知市中万万
島田　出世　〃　高知市五台山
浜田　太郎　〃　高知市北島町
岡林　玉雄　〃　高知町西塚原
浜滑　弘視　〃　室戸市室土岬
末崎　栄　大牟田市大正町二
前島　秀信　〃　久福木
山中　照司　〃　歴木
弘島ミツ子　荒尾市大和区六班
桑原　義広　三重県四日市市大宮
桑原　一博　神奈川県川崎市新城
大津　清一　荒尾市原万田甲根
奥村　幸子　〃　境崎
鞍谷スエノ　〃　原万田社宅
松井美登栄　〃　境崎
末藤　正治　大牟田市石京町
永田　学　〃　橋
福富　正浩　荒尾市亀島
古賀　信之　〃　昭和区
小川　吉夫　大牟田市機野
内田　貞己　〃　三池中町
松永よしの　横浜市戸塚区飯島
吉田　和男　荒尾市大和区
福島　将美　熊本県島町
古沢　熊人　荒尾市大島下
砂原　俊雄　熊本市電波管理局
橋本　伍一　熊本県阿蘇郡阿蘇町
大住　正義　熊本市神水町一〇五
馬場　昇　〃　三本木五丁目
住田　勤　熊本県八代郡鏡町
端穂　テイ　鹿児島市大学病院
藤島　義男　福岡県遠賀郡水巻町
弓戸勘之助　〃
竜　恵美子　大牟田市天道町
古賀　一喜　〃　本町
園田　武盛　〃　花園町
浦川　慧　熊本市田辺町出仲間
島田　重敏　〃
田中　捷也　〃　東寺原町
山下　邦夫　〃　秋津町秋田
岩下　寛治　〃　清水町室園
鈴水　駿二　〃　亀井
緒方　正信　〃　室園
福田　孝義　〃　春竹町
前田　正憲　〃　白山町三
仙波　洋八　〃　出水町長溝
横尾　斗苗　〃　草場町
松平　英之　〃　島町
宮内　芳春　鹿児島県志布志町
新保　慶弘　〃
内田　明　大牟田市白川南
藤崎　達夫　愛知県知多郡東浦町
堀　直　大牟田市白川南
荒尾　勝弘　佐賀県唐津市佐志南
原田　清一　大牟田市上屋敷町
渡辺　大助　〃　歴木
浦野　良子　大阪府枚方市原山町
小松　武　高知県室戸市佐喜浜
高田　マツ　大牟田市橘
古閑　光人　荒尾市中央区西十班
星下　清　〃　本井手
古川　敏雄　〃　中央区東七班
溝口　正雄　大牟田市新港町
河野　富蔵　〃
（ほかに匿名加入の方が五名）